

3学期は、運動場にサッカーコートが作られる。朝のサッカー部員たちが元気に走り回っている。2チームに分かれて、試合をしている。素敵なのは、小さい学年の子から大きい学年の子まで入り混じっていることだ▼キャッチボールをしている男の子2人組がいた。しかしよく見ると、3人の子が間に立ちただかってボールの奪い合いをしている。それはそれで遊びは成立しているようだ。しばらく見ていると、グローブを持っているのに、飛んできたボールを足でとめていた。隣でドッチボールをしていた友達から、「サッカーじゃないんだから、グローブでとれよ」すかさず、チェックの一言▼おにごっこをしている低学年の子、遊具広場で遊んでいる子、朝の運動場で活動している子はざっと100人といったところだろうか。3学期修了式の朝のひとこまである。子どもたちはこんな朝の日常が、天気の良い朝には、あたりまえのように見られた▼「なんでもないようなことが しあわせだったとおもう」そんな歌のフレーズがあった。学校は、なんでもないような日常こそを大切に、行事や儀式では、日常でつけた力を発揮する▼今日の修了式も自分たちで並んで体育館に入ってから5分前集合。もちろん、入ってきたら全員がそろそろまで静かに待つ。3学期のテーマ「最後まで現学級をやり切る」阿下喜小学校令和6年度の扉は無事閉めることができた。